

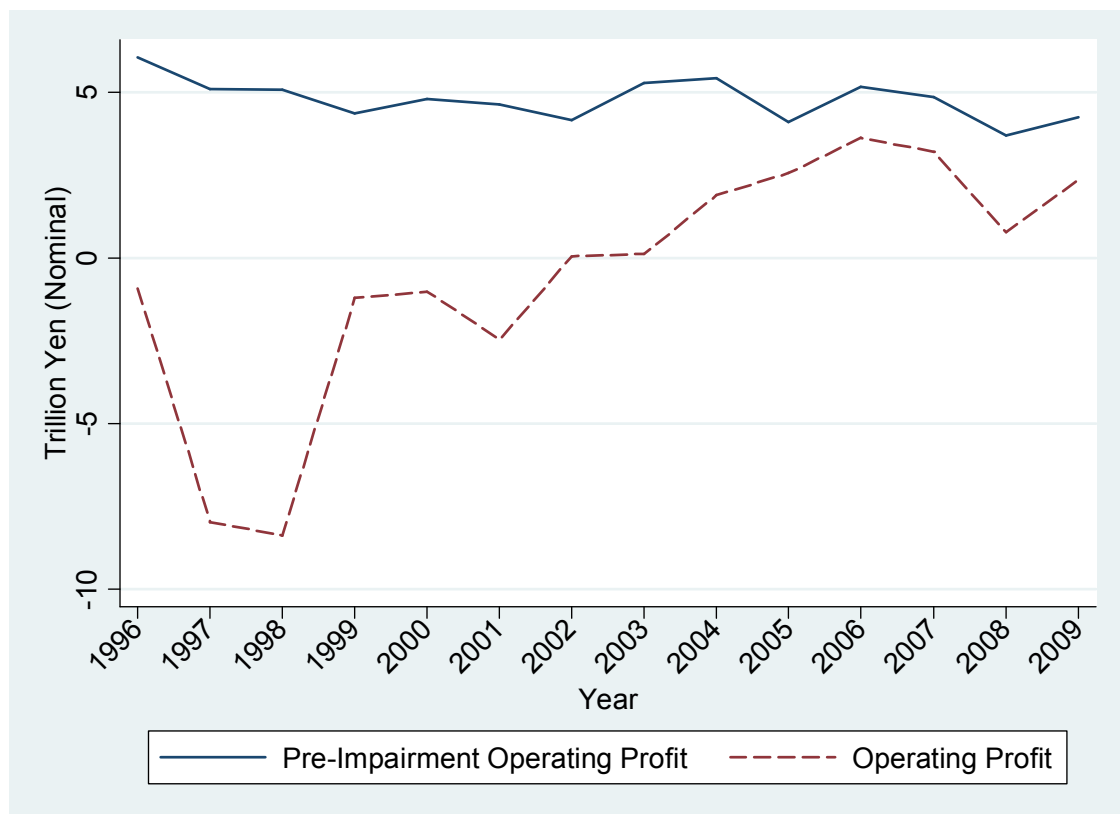
日本版金融ビッグバンが金融機関の収益性と効率性に与えた影響

橋本内閣のもとで1996年から始まった金融ビッグバンは、金融セクターの改革を通し、金融機関の収益性と効率性を向上させることを目的としていた。たしかに金融ビッグバン以前と以降で日本の金融セクターは様変わりした。合併を通し「大手20行」は「3大メガバンク」に収束し、より集約的になった。より集約的な金融セクターとなったことで金融機関の収益性と効率性は上がったのだろうか？

1. 収益性への影響

まず収益性について検討する。図1は日本の金融セクターの総利益を金融ビッグバンが始まった1996年から時系列にプロットしたものである。営業利益(破線)は上昇傾向にあるものの、営業利益から貸倒引当金繰入額を差し引いた額(実線)は緩やかに減少していることが分かる。金融ビッグバンによって収益性が向上した証拠は見られない。

図1. 日本の金融セクターの総利益(1996-2009)



金融機関の種類別に見てもこの結論は変わらない。表1は利益率(ROA、ROE)を金融機関の種類ごとに示したものである。金融ビッグバンの主な対象でかつ最も恩恵を受けたはずの都市銀行・信託銀行・長期信用銀行は、地方銀行より利益率が低い。

表 1. 金融機関の種類ごとの利益率(1996-2009)

	Return on Assets (%)	Return on Equity (%)	Observations	Number of Banks
City	-0.36 ⁽⁻⁻⁻⁾ (0.80)	-8.28 (49.57)	81	15
Trust	0.03 (1.21)	-14.03 ⁽⁻⁻⁻⁾ (97.25)	85	11
Long-Term Credit	-0.62 ⁽⁻⁾ (0.86)	-24.39 (38.64)	10	3
Regional	0.12 ⁽⁺⁺⁺⁾ (0.58)	0.96 ⁽⁺⁾ (25.60)	884	68
Regional II	-0.13 ⁽⁻⁻⁻⁾ (1.28)	-0.87 (57.82)	700	69
Other	0.69 -	15.41 -	1	1
Full Sample	-0.01 (0.97)	-1.05 (47.36)	1,761	167

Note: Standard errors in parentheses below each mean estimate.

(+), (++) , (+++) ((-), (-), (---)) indicate that the estimate is statistically significantly positive (negative) against the other groups at the 10, 5 and 1 percent level respectively.

Return on assets is operating profit divided by average total assets. Return on equity is operating profit divided by average equity.

2. 効率性への影響

次に効率性について検討する。図 2 と図 3 はそれぞれ日本の金融セクターのコスト効率性と利益効率性の推移を示したものである。図 2 を見るとコスト効率性は金融ビッグバンが完了した 2001 年以降上昇している。ただし図 3 を見るとより重要な利益効率性は 2001 年以降低下している。金融ビッグバンは効率性についても効果がなかったことになる。

金融機関の種類別に見ても結論は同じである。表 2 は利益効率性とコスト効率性を金融機関の種類ごとに示したものである。都市銀行・信託銀行・長期信用銀行は地方銀行よりコスト効率性は高いが、利益効率性は低い。

図2. 日本の金融セクターのコスト効率性の推移(1996-2009)

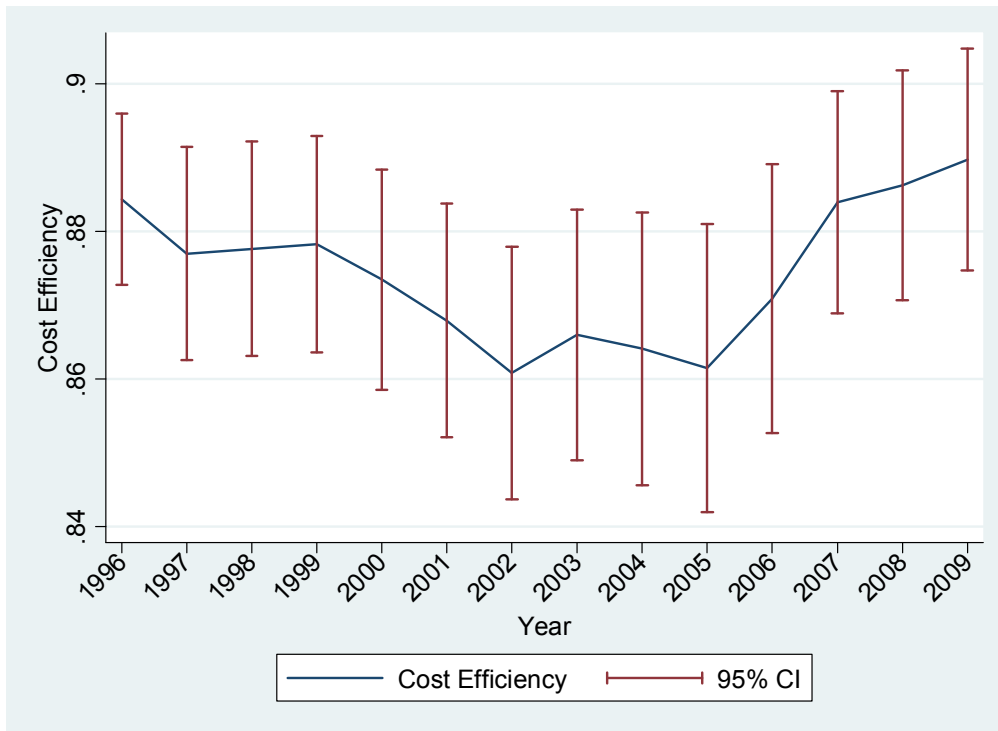


図3. 日本の金融セクターの利益効率性の推移(1996-2009)

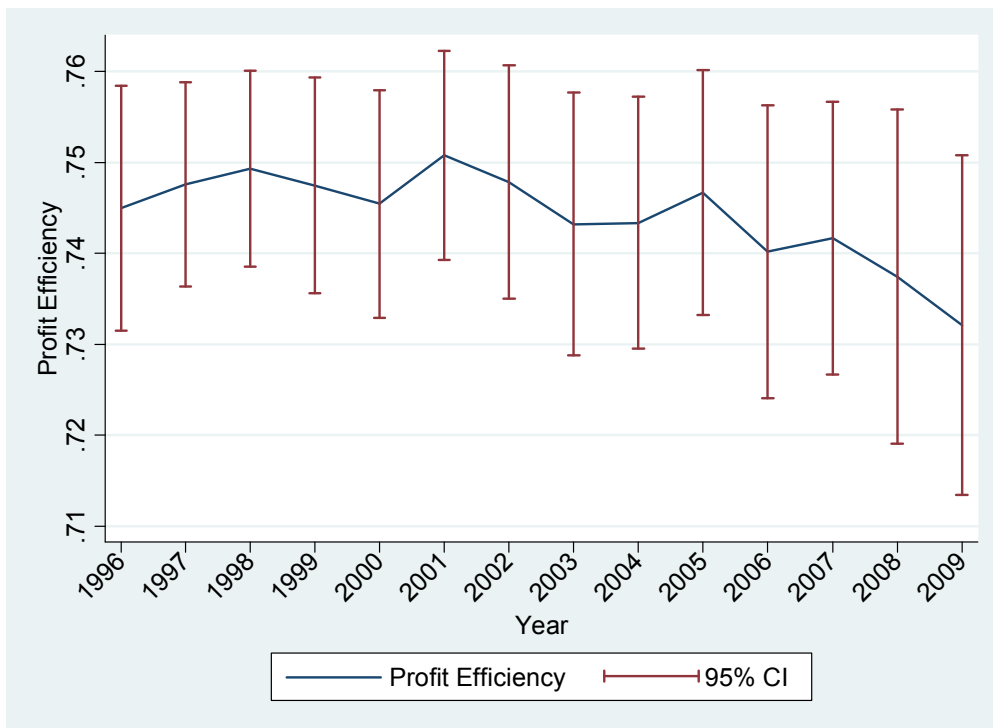


表 2. 金融機関の種類ごとの効率性(1996-2009)

	Profit Efficiency	Cost Efficiency	Observations	Number of Banks
City	0.42 ⁽⁻⁻⁾ (0.118)	1.00 ⁽⁺⁺⁺⁾ (0.001)	82	15
Trust	0.56 ⁽⁻⁻⁾ (0.142)	0.98 ⁽⁺⁺⁺⁾ (0.097)	88	12
Long-Term Credit	0.59 ⁽⁻⁻⁾ (0.172)	1.00 ⁽⁺⁺⁺⁾ (0.001)	10	3
Regional	0.68 (0.071)	0.90 ⁽⁺⁺⁺⁾ (0.071)	887	68
Regional II	0.74 ⁽⁺⁺⁺⁾ (0.065)	0.81 ⁽⁻⁻⁾ (0.095)	710	70
Other	0.59 (0.010)	0.98 (0.000)	2	1
Full Sample	0.68 (0.106)	0.87 (0.100)	1,779	169

Note: Standard errors in parentheses below each mean estimate.
 (+), (++) , (+++) ((-), (--), (---)) indicate that the estimate is statistically significantly positive (negative) against the other groups at the 10, 5 and 1 percent level respectively.

3. 結論

本研究は1996年から始まった日本版金融ビッグバンが金融機関の収益性と効率性に与えた影響を検証した。収益性と効率性の向上は金融ビッグバンが掲げた主目的であった。

検証の結果、金融ビッグバンが収益性と効率性に効果を発揮した証拠は見られなかった。金融ビッグバンが完了した2001年以降も金融セクター全体の収益性と効率性はどちらも緩やかに減少あるいは低下していた。また金融機関の種類別に見ても金融ビッグバンの主な対象であった都市銀行・信託銀行・長期信用銀行は収益性・効率性ともに小規模の地方銀行より低かった。